オリックス＜8591＞、アイビーシー＜3920＞をTOBで子会社化

オリックスはITインフラストラクチャサービス領域の拡大に取り組んでおり、その一環でITシステムの監視サービスや関連ソフトの開発・販売を手がけるアイビーシーをTOB（株式公開買い付け）により完全子会社化する。

アイビーシーの主力製品「System
Answer」を起点としたITインフラサービスの一体的提供によるライフサイクル型ビジネスモデルへの進化や顧客基盤の相互活用、技術力・サービス提供力の強化などの相乗効果を見込む。

一方のアイビーシーは既存事業の拡大や新規業種の顧客獲得を進める上で、自社単独では制約があると判断。ネットワーク、セキュリティ分野で多くの顧客を有する子会社を持つオリックスの傘下に入ることで、更なる事業の拡大を図る。

買付主体はオリックス傘下のOPI・ITホールディングス（東京都港区）。買付価格は1株につき1490円。TOB公表前日の終値1464円に1.78％のプレミアムを加えた。買付予定数は436万641株で、下限は所有割合45.13％にあたる250万8200株。TOBによる買付代金は約64億9700万円。買付期間は2026年11月12日～12月24日の30営業日。決済の開始日は12月30日。公開買付代理人は東海東京証券で、復代理人はマネックス証券。

アイビーシー会長の資産管理会社プラスフジや光通信の系列企業が所有する合計21.54％の株式はTOBに応募しない。自己株式取得の対象としない0.24％を除く残りの21.30％について、アイビーシーが行う自己株式取得に応じる。TOB分と合わせた取得総額は約80億4300万円。

アイビーシーはTOBに賛同し、株主に応募を推奨することを決めた。TOBが成立すれば、同社の東証スタンダード市場への上場は廃止となる。

アイビーシーは2002年に創業。2015年に東証マザーズ市場に上場し、2016年に東証1部に昇格した（2022年4月東証スタンダードに移行）。